

令和6年度首里城扁額製作検討委員会

第1回合同ワーキング資料

2024年9月25日（水）14:00 - 17:00

【資料4】 監修方法、監修体制及び製作の記録について

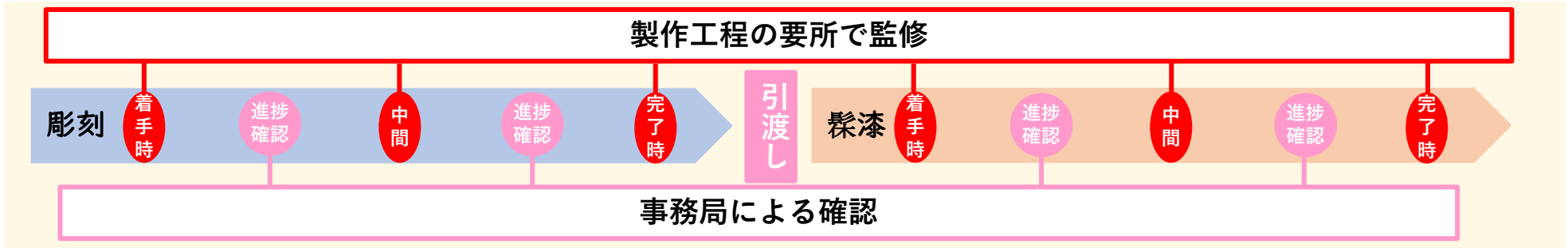
1. 監修方法について
2. 監修参加者選定の考え方
3. 監修参加者（案）
4. 製作の記録

(1) 監修等の方針

- 扁額本製作段階においては、各分野の製作工程にあわせ、委員・監修者による監修を行う。
- 監修は、製作過程での造形や仕上がり等の確認、専門的見地からの助言、技術的な指導、製作上の課題の確認・検討を行うこととし、これらに関する現場での実物調整等は、監修の場で決定を行うこととする。
- 各工程の監修方法（メンバーやタイミング等）は委員会議決事項とし、監修実施結果は、適宜委員会に報告を行う。
- 監修の他、事務局による確認立ち合い、技術者等による引渡立ち合を行い、進捗状況等を適宜、委員等の関係者に共有する。

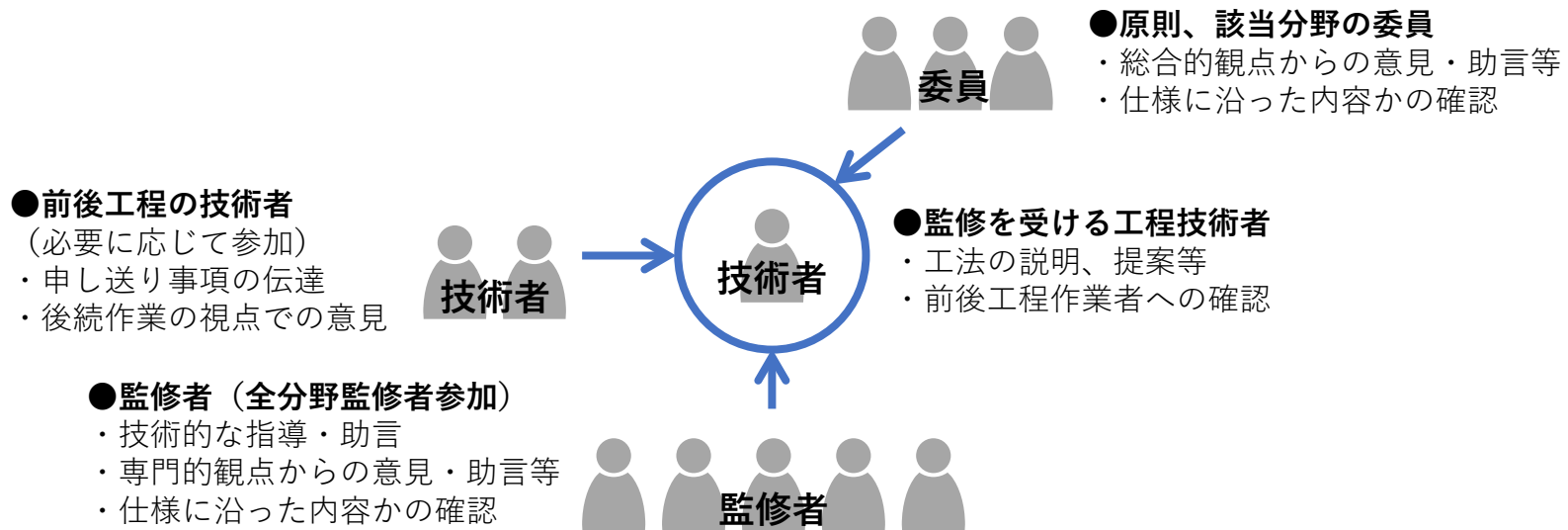
監修・確認・引渡し		(案)
監修	監修を実施する工程	<ul style="list-style-type: none"> • 題字・御印彫刻工程（地板への接合含む） • 額縁彫刻工程 • 各部材髹漆加飾工程 ※各部材の木工工程は、図面に則した製作を基本とするため、監修体制の設置を想定しないが、必要に応じて監修対応を行う。
	監修メンバー	<ul style="list-style-type: none"> • 関連する分野の委員、監修者、製作技術者を基本とする。 • 彫刻から髹漆等、分野間の関連や引継ぎを考慮して参加者を決定する。
	監修時期	<ul style="list-style-type: none"> • 監修時期は、各工程の着手時・中間時・完了時での実施を基本とする。 • 中間時監修については、製作工程の要所で適宜実施することとし、そのタイミングや回数等は、着手時に監修メンバーによる協議の上設定する。 • また、製作技術者の要請を受けての臨時的な実施も想定する。
	監修方法	<ul style="list-style-type: none"> • 現物確認を原則とし、状況に応じてweb会議や、写真・動画による確認も活用
確認	事務局による立会を実施	<ul style="list-style-type: none"> • 監修以外の進捗状況確認は事務局で行う。
引渡し	技術者、事務局立会のもと引渡し	<ul style="list-style-type: none"> • 次工程への引渡しは、関係する技術者と事務局立会のもと行う。 • 作業上の申し送り事項等を共有する。

監修のイメージ（例）



< 監修参加者選定の考え方 >

- ① 本製作の作業に関連する分野の監修者・技術者、仕様検討に携わった関連分野の委員を基本的な監修参加者とする
- ② 原寸部分試作の製作過程で生じた課題とその原因分析・対応を踏まえ、分野間の関連や引継ぎも考慮して選定する



3. 監修参加者（案）

＜各分野における参加委員、監修者、製作技術者＞

分野	委員	監修者	製作技術者
文字・落款	安里 進（漆芸史） 田名 真之（歴史）	盛島 高行（文字・落款） <u>（幸喜 洋人（文字・落款））※</u>	盛島 高行（中山世土） 幸喜 洋人（輯瑞球陽） 上間 志乃（永祚瀛壖）
木工・彫刻	安里 進（漆芸史） 糸数 政次（漆芸）	波多野 泉（彫刻） 大城 直也（木工） 岡田 靖（彫刻）	仲宗根 正廣（彫刻） 高良 輝幸（木工） 杉浦 誠（彫刻）
髹漆・加飾	安里 進（漆芸史） 室瀬 和美（漆芸） 糸数 政次（漆芸）	當眞 茂（髹漆・加飾）	諸見 由則（髹漆） 宇良 英明（加飾）

※文字・落款分野の監修者である盛島氏より製作技術者の幸喜氏へ監修に加わってほしいとのご要望を頂いており、「中山世土」の本製作の監修より文字・落款分野については幸喜氏にも監修者として加わっていただきたい。
今後、2枚目以降の監修者の移行も含め検討していく予定。

4. 製作の記録

(1) 製作記録作成の目的

- 今回の首里城扁額の復元は、製作にかかる技術を発揮・継承する貴重な機会である。その記録を作成し保存・活用することで、今回製作に直接携わることができない技術者や次世代の技術者の育成に資する。
- 本事業により製作する扁額の修理・修復等を見据え、それらに資する記録の作成・保存を図る。
- 撮影した記録等を効果的に活用して情報発信を行い、「見せる復興」での「現地で今しか見れない製作作業」と相乗効果をあげることや広く関心を持ってもらうことを図る。

(2) 製作記録作成の方針

- 首里城扁額製作業務では、教育や研究活動の教材として使用されることも想定して記録を行う。
 - ⇒各分野の製作の検討過程や工程ごとに、技術者の細やかで迫力のある「手わざ」として、動画や静止画による撮影を行う。
 - ⇒動画記録は、製作工程の要所で記録する。
 - ⇒写真記録は、製作技術者の協力も得ながら、製作開始から終了までの工程を可能な限り幅広く記録する。
 - ⇒本製作段階では、特に彫刻物において3Dデータ化による形状の記録についても検討する。
- 製作記録の保存・活用についても検討を行う。

記録作成のイメージ

